

## 会 議 要 録

会 議 名		令和元年度 第1回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和元年6月27日（木）午後1時30分～午後3時10分
場 所		小平市役所 5階 505会議室
出席者 等	委 員	14名（欠席者 3名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長兼指導課長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課地域福祉担当係長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1名
会議 内容	1 開 会 2 委嘱状交付 3 委員自己紹介 4 会長・副会長の選任 5 議 事 （1）小平市青少年問題協議会の概要について （2）小平市子ども・若者計画の概要について （3）令和元年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について 6 情報交換・意見交換 7 その他 8 閉 会	
配付 資料	会議次第・席次表 資料1 小平市青少年問題協議会委員名簿 資料2 地方青少年問題協議会法・小平市青少年問題協議会条例 資料3 令和元年度 子育て支援課子ども・若者関連事業概要 資料4 平成30年度 子ども家庭支援センター 相談件数 資料5 子どもの学習支援事業の概要 資料6 「子ども食堂」のあり方の検討結果まとめ 資料7 令和元年度 地域学習支援課 子ども・若者関連事業概要 小平市子ども・若者計画書・計画概要版 小平市子ども・若者の意識・実態調査報告書 ティーンズ相談室「ユッカ」 社会を明るくする運動「RE:スタート」 こだいら保護司だより 青少年指導者用 人権尊重の社会 ひらく - 未来をひらく、心をひらく - 家族ふれあいの日	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市青少年問題協議会の概要について

質疑なし

(2) 小平市子ども・若者計画の概要について

質疑なし

(3) 令和元年度の子ども・若者に関する主な事業の概要について

質疑なし

2 情報交換・意見交換

委 員	<p>小・中学校でPTAの役員経験があるが、学校行事の時に、保護者だけではできない部分を青少対などの地域の方に協力してもらっており、学校運営上、地域と学校の協力体制が必要と感じている。</p> <p>青少対で活躍していただける方の人材確保が必要である。地域の方が子どもの成長を支えていることを知ってもらい、まわりの人の協力が得られればと思う。</p> <p>いじめやひきこもりなどの問題があるが、そういう子どもたちへどのような支援ができるか考えている。</p>
委 員	<p>市の事業を見ていると子どもたちへの支援が多岐にわたっており、今の子どもたちは恵まれていると思った。しかし、このような支援からこぼれおちる子どもがいる。</p> <p>保護司をしている中で、家庭が一番大事だと感じている。貧困やひきこもりなどの問題に対して何かできないかと考えている。</p>
委 員	<p>家庭が一番と感じる。自分の周りには恵まれた環境にある家庭が比較的多いが、その中でも支援の情報が届かない人や社会から自ら閉ざしてしまう人を見聞きする。そのような家庭に何かできないかと考えるが、何もできない現状に歯がゆく感じるが多々ある。</p> <p>市内全域で、家庭や地域など身近なところにまで、細やかな活動が根付いていく、大きなセーフティネットがはれるような施策ができれば良いと思う。</p>
委 員	<p>非常にきめ細かく目配りをして施策を組んでいると感じている。</p> <p>かつて家庭裁判所調査官として奉職した中で、さまざまな家庭の非行少年と向き合ってきた。とりわけ、きわめて厳しい貧困状態にあるにもかかわらず、社会のセーフティネットの網の目からこぼれて孤立してしまい、地域社会との接点がないまま、閉塞的な空間でほそぼそと生きている親子と出会う機会が少なくなかった。このように社会的支援が届きにくい家庭に、いかに手を差し伸べられるかが課題である。困難な面もあるが、努力と工夫を重ねていくことが必要である。</p> <p>また、外国籍の子どもやその家族との地域での共生の在り方を、今までとは違う切り口で考えていくことも必要と思う。</p> <p>ただいま紹介された市の施策の中では、ティーンズ相談室での居場所づくりが大切だと思う。かつて私が関わった少年たちは、落ち着いて自分を見つめ直し、自分のよさを再確認できるような健全な居場所が乏しかったからである。市内にはこうした居場所があるのだということをもっと周知して活用してほしいと願う。その意味では、資料3ティーンズ相談室の相談件数で、その他の相談(居場所利用)の件数が少ないのはとても残念である。これは何か理由があるのか。</p>

事務局	<p>ティーンズ相談室は、これまで親を通しての支援であったものを、子どもに直接支援することを目的として開始した。子ども自身から直接相談を受け、必要な場合には関係機関へ同行訪問するなどしてつなげるものである。支援に当たっては、成果を焦らず子どもの成長に合わせ自立を目指している。このように、まだ試行錯誤のところがあり、統計の件数にも影響している。</p> <p>外国籍の子どもについては、小平第五小学校で学習や生活の指導を行う帰国児童生徒教室を実施している。その他に、国際交流協会では、交流事業や外国籍の方への保育園入園説明会なども実施している。今後いろいろな場面で対応を求められることが増えると考ええる。</p>
委員	<p>自立援助ホームで勤務していたが、そこでは児童養護施設に入れず、親からも援助が受けられないなど支援の網からこぼれてしまった子どもたちをケアしている。自立援助ホームに入所してくる子どもの中には、生活リズムが整っておらず、働いてもすぐやめてしまったり、門限をやぶったりといったことがあったが、施設では子どもたちへのアフターケアを重視している。また、実家のような役割を果たしている。</p> <p>入所してくる子どもたちを見てきた中で、周りの大人の目線が大事だと思った。おかしいなと思ったら、一番近くにいる大人が社会的資源につなげることが大事である。</p>
委員	<p>児童虐待や不登校の相談件数が多いことに驚いた。自分が中学生の時に不登校になった子が身近にいたが、当時は問題であるとの認識はなかった。今は無視してはいけない問題であると思う。不登校の原因として、いじめが多いのではないかな。そういう子どもたちを支援する施策を市は用意してくれているので、もっと子どもたちに知ってほしいと思う。</p> <p>青少年リーダーをやっているが、青少年リーダー養成講座には他の学校の子どもが来るから参加するという子が多い。他の学校の子たちと交流できる場があればいいと思う。</p>
委員	<p>子どもは大人に相談しづらいと感じている。</p> <p>いじめは、先生が気づきにくく、いじめられている子は言いづらい。相談できる場などのパンフレットが学校で配られるが、配られたからといって相談しづらいし、相談したからといって何か解決するのかと思うことがある。そう思う子どもたちに何かできないかと思う。</p>
委員	<p>青少年委員をしているが、これまで関わっていない施策について知ることができた。</p> <p>青少年リーダー養成講座や放課後子ども教室などに参加する子どもたち以外のもっと目配りしてあげなくてはいけない子どもたちがいると改めて思った。</p>
委員	<p>おせっかいな大人になろうと思っている。かつては運動会などに関わってくれる大人がたくさんいた。そういうサポートをする人が必要であるが、地域の人におせっかいをすることが難しくなっていると感じる。</p> <p>昨今の事件で思ったことは、親がどんなに立派な職業についていても、家庭でどれだけ子どもと向き合ってきたかが大事ということである。家庭をもったら、子どもを育てることを夫婦で一緒に勉強し、夫婦と一緒に育っていくことが大事である。子どもを認め抱きしめてあげることが必要である。</p> <p>保護司をしているが、家庭が一番と感じる。悪いことをしても戻れる場所があると更生につながる。</p>

委 員	<p>民生委員児童委員は、24 時間勤務に近い状態で対応しているが、困っている人を助けることが難しい場面がある。委員が高齢化していて、手が回らない状況にもある。</p> <p>今活動している中での希望は、スクールソーシャルワーカーが実際に活動できる勤務日数を増やしてほしいということである。</p>
委 員	<p>市立中学校は落ち着いている。いろいろな課題はあるが、現在のところ重大ないじめの問題はない。過去には学校が荒れていた時代もあったが、その頃の子どもたちは、心の荒れや辛い気持ちがそのまま表情に出ていたので理解しやすかった。今の子どもたちは、うまく隠したり、我慢したりして、本心を表情に出さないのが、丁寧に観察や声かけをしないと理解するのが難しい。</p> <p>学校は団塊の世代の教師が抜け、若い教師が増えている。若い教師は優秀であるが経験が浅く、子どもの心に入っていく勇気が足りないように感じる。子どもの心とつながれる教師を育てていく必要がある。</p>
委 員	<p>小平は落ち着いている。最近では、子どもよりも親に問題があると感じている。家庭で親がどれだけ子どもと接している時間があるのか。共働き世帯では、子どもと接することができるのが2～3時間ほどで、学校の先生の方が長い。そのような状況で、悩みごとを学校の先生には打ち明けるが、親を信じられなくて親には言わないということがある。親ではなく、ただの大人になっている。もっと子どもと接する時間を長くとりコミュニケーションを取ってほしい。</p>
委 員	<p>資料4 平成 30 年度 子ども家庭支援センター相談件数において、13 歳以降の高年齢児童の児童虐待相談件数が減少しているが、相談しないことを選択する子どもがいるのだと思う。自分の状況を表に出さないまま成長し、自分が子育てするようになり虐待を受けていたことなどを考えることがあるのではないか。</p> <p>児童相談所の手を離れてしまう 18 歳以上の子どもたちが心配である。長いスパンで家庭を支えることが大事であり、地域でカバーしながら、すこしでもつながりを持てるようなチャンネルを多く作ってほしい。</p>
会 長	<p>市では、多くの事業を市民の皆さまのご意見をいただきながら実施している。それが必要な人に伝わっているのか、市民に伝えていくことが課題なのではないかのご意見をいただいた。今後の子ども・若者施策に活かしてほしい。</p>